

全日本インカレ結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

（同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。）

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

12/2 に、東京都大田区総合体育館において、男子部が全日本インカレに出場しました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

1 回戦 vs 北海道大学（北海道学連 1 部 2 位）

●2-3（20-25、22-25、25-19、25-23、13-15）

（最終結果）

優 勝 早稲田大学

準優勝 国士舘大学

第 3 位 近畿大学

第 4 位 専修大学

2 セット連取されて後がなくなった 3 セット目、エース山下（4 年・広島・安古市高校）が 2 本連続でシャットされ、キャッチで支え続けてきた水谷（4 年・三重・松阪高校）が初めて崩されて相手のサービスエース。大黒柱である 2 人が止められての 0-4 となり、まさに万事休すの展開でしたが、ここから 2 セットを奪い返し、フルセットの 2 点差勝負にまで持ち込むわけですから、今年のチームの底力がいかにとてつもなかったか、時間が経った今でも少し信じられないくらいです。山下と水谷をはじめとしてチーム全員が、追い込まれても力任せや一か八かのプレーに逃げることなく、相手の状態と自分たちの状態を常に冷静に見極めて、得点の確率が高い方法を探すことに余念がなかった、やることが何一つブレなかったことは本当に素晴らしかったと思います。絶望的な高さを誇る 195cm の跳躍力のあるミドルブロッカー、北海道秋季リーグ戦で猛打賞を受賞した広角に打ち分けるエースアタッカーを擁する相手に対し、平均身長 173cm のチームが頭を使って応戦する姿は、二度と忘れられない試合になることを試合中から何度も思うほどでした。一発勝負のトーナメント戦ではやりたいことが出来ずに負けていくチームも多い中で、自分たちの力を存分に発揮し、最後の最後まで全員が勝利を意識できたことはとても価値のあることです。引退する 4 年生も、残された現役生も皆自信にして、これからの励みとして頑張りたいと思

います。

相手のセンターとレフトにブロッカーの枚数を割かないといけない状況で、ましてや 2 枚張ってもブロックの位置とは全く異なる軌道で打たれ、果たして飛ぶ意味があるのかと思いたくなるような差がありましたが、それでも一方的な展開にさせなかったのは、まずは粘り強いレシーブと、ミスが少ないつなぎのプレーが大きかったように思います。相手のサーブは水谷にほぼ集中し、それを受け続けてしかもスパイクまで決め続けた水谷のパフォーマンスはもう圧巻で、安定したその土台のもとに佐々木（4 年・佐賀西高校）、川村（1 年・東京・日本大学第三高校）の両センターが躍動する、いつもの強い広大を東京でも見せてくれました。初めての体育館とは思えないほど、もらうプレーや二段トスの精度も高く、気持ち的な部分で言えば、山下がとにかく堂々としてくれていることで、周りは山下について行けばいいだけになるので、結果として焦りとかを感じなかったように見えました。スタメン出場となった 1 年生の北村（兵庫・須磨翔風高校）も 1 本目のスパイクから当然のように決めてみせ、セットを重ねるにつれて課題のレシーブ面にも進境が見られたことは、来年に向けて大きな収穫になったことと思います。また、1 セット目からチームで狙いを持っていたサーブは、相手が一瞬引いた 3 セット目以降に効果的なボディブローとなって現れたことも大変見事でした。お互いに 1 点ずつ取り合った 5 セット目の集中力、1 点の重みを噛みしめる姿、そして何よりこの時間を全員が全力で楽しむ光景は、1 回戦とは思えないほど非常に見応えがありました。

1 年を振り返ってみると、試合間隔が少し空いた中四国以降の地道なチーム作りが、秋の飛躍につながったように思います。中四国までは、新入生が加わって試合も次々とありますので、あまり考えなくても時間がチームを成長させてくれますが、中四国以降は次の西日本インカレまで約 1 か月もあり、この時期の時間の使い方によってチームは大きく変わるものです。下半期を占う 1 か月間と言うのは、チームにとっては一番難しい時期でもあり、環境に慣れてくる 1 年生、時間にゆとりがあり色んなことに興味が湧く 2 年生、実習などで忙しくなる 3 年生、バレーよりも進路優先となる 4 年生、と気持ちがバラバラな方向を向き、プレーのレベルもバラバラな状況の中で、チームをまとめていかないといけません。しかも今年は夏に北体育館が使用できず、例年以上にチーム作りが難しかったはずですが、各学年にキーマンとなるプレーヤーが一人はいて、彼らを中心に 30 人近いメンバーがよくまとまったと思います。特に、4 年生の姿からはあらゆる場面で学ぶべきことが多くあったことと思いますので、来年以降は各学年のキーマンの人数を増やせるように、部員数をそのままチームの強さに直結させて欲しいと思います。今大会をもって、4 年生の水谷、山下、佐々木、鎌田、加藤、土屋、和田、妹尾、鶴田は引退となりました。多くの波がありましたが、自分たちにだってやればできることを疑わず、実際にできるところまで持っていった努力は、今後自分たち自身を含めて色々な人たちの支えとなるはずです。これからは大学 4 年間よ

りもはるかに長い卒業生としての時間を過ごすこととなりますので、4年間の財産がいつまでも輝き続けるように、現役生の活躍を末永く見守ってくれたらと思います。

今年もたくさんのご声援をいただき、誠にありがとうございました。
来年もどうぞよろしくお願いいたします。